

Made in AKITA

メイド イン アキタ

古きに学び、新しさを繋ぐ
次世代に受け継がれるものづくり

大館曲げわっぱ 有限会社柴田慶信商店

1966年、初代柴田慶信氏(現会長)が創業。2代目の柴田昌正代表と共に、県外や国外に向けて積極的な販路開拓を行い、県内の伝統的工艺品産業の発展に寄与している。

「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」では、式典行事で使用した「お手渡し容器」を手掛けた。

使い手と時代に寄り添う

全国の曲物で唯一、国の「伝統的工艺品」に指定されている「大館曲げわっぱ」。今や誰もが知る秋田名物であるが、この「大館曲げわっぱ」のブランド化に大きく貢献した企業のひとつが有限会社柴田慶信商店だ。無塗装にこだわることで、天然秋田杉が持つ本来の性能を最大限に引き出しながら、使い手に寄り添う独創的なアイデアで消費者を魅了している。

「先代が独学で学んできたからこそ、柔軟な思考で取り組めたのかも知れません」と語るのは2代目・柴田昌正代表。勤めていた会社を辞め、25歳で縁もゆかりもないこの世界に飛び込んだ父・慶信氏は、世界中の曲物の製法を研究しながら知識と技を独学で究めた。そんな父の背中を見てきた昌正代表もまた、型にはまらない独創的な仕掛けを数々打ち出しており、日用品デザイナーとコラボした「マグワ」シリーズの立ち上げや、首都圏に直営店を作り職人によるワークショップを開催するなど、「作り手」と「使い手」をつなぐ活動を通して、業界を盛り上げ、牽引している。



親子二代で切磋琢磨し、20代からベテランまで伝統工芸士の資格を持つ職人も多く所属する同社は、高い技術力を誇る。今年開催された「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」では、その技術力が高く評価され、天皇后両陛下への“お手渡し容器”として採用された。

「現天皇陛下が皇太子殿下として大館郷土博物館をご視察された際、曲げわっぱの実演製作をしたのが父でした。二代に渡って皇室行事に携れたことは嬉しい」と笑顔を見せつつも、大切なのは技術力だけではないと昌正代表は語る。

「ものづくりは“売れて”初めて完成です。“今”に合ったものを作り、買って使って喜んでもらうこと。もしかしたら100年後には全く違う形の曲物になっているかも知れませんが、それもまた伝統を守る事だと思います。これからもお客様の想像を超えるものづくりをしていきたいですね」。



代表取締役

柴田 昌正

Yoshimasa Shibata

有限会社 柴田慶信商店

〒017-0044

秋田県大館市御成町2丁目15-28

TEL/FAX.0186-42-6123

<http://magewappa.com/>

会社概要

天然杉を使用した伝統的工艺品曲げわっぱの製造販売。

日本橋三越店(本館5階)、浅草店(オレンジ通り)、岩田屋本店(福岡市)、わっぱビルディング店(大館市)を展開。

